

平成 30 年度 第 2 回大垣市社会教育委員の会 議事録

日 時	平成 30 年 7 月 24 日 (火) 15:00～16:30
場 所	牧田公民館
次 第	1 開会のことば 2 「大垣市民の誓い」朗読 3 教育長あいさつ (1) 講話「定住促進と地域づくり」 NPO 法人「まちづくり西美濃かみいしづ」 ① NPO の立ち上げについて ・牧田連合自治会長 杉田 邦隆 様 ② 概要、計画、発信について ・上石津地域事務所 地域政策課 地域おこし協力隊員 勝川 清史 様 ③ 実践事例の紹介 ・池井 元 様 (2) 質疑応答 4 閉会のことば
出席者【委員 8 名、事務局 11 名、計 19 名】	
・ 委員	
三宅 治、竹中 昌子、平野 宏司、安田 義明、松山 昌代、小藪 卓郎、 岩下 里美、神谷 利行	
・ 事務局	
山本 譲（教育長）、守屋 明彦（教育委員会事務局長）、安藤 亨（まちづくり推進課長 兼 市制 100 周年記念事業推進室長）、杉田 昭子（市民活動推進課長）、 浅井 靖弘（子育て支援課長）、山下 直人（教育庶務課長）、細江 敦（学校教育課長）、堀 恭寿（社会教育スポーツ課長）、中山 健一郎（社会教育スポーツ課参事）、窪田 美保（社会教育スポーツ課主幹）、小原 良次（社会教育指導員）	
欠席者【委員 2 名、事務局 3 名】	
河村 義子、益川 浩一、坂 隆（キッズピアおおがき子育て総合支援センター所長 兼 南部子育て支援センター所長）、中井 正幸（文化振興課長）、山田 嘉隆（社会教育スポーツ課主査）	
傍聴者【1 名】	
事務局	開会の言葉

全員	「大垣市民の誓い」朗読
教育長	あいさつ 7月初めの西日本の豪雨で、広島県、岡山県、愛媛県などで、たくさんの方々が亡くなり、大きな被害が出た。さらにこの頃は、連日高温注意報が出て、40度近い気温となっており、熱中症の心配がされている。学校も熱中症を大変心配している。教育委員会にも「エアコンを入れてくれ」との電話をたくさんいただいている。とりあえず夏休みに入ったので、小学生はよいものの、中学生は部活があり、大会が予定されている。今日もバスケットボールの会場を見に行ってきたが、体育館は非常に暑かったが、熱中症の子どもはいないとのことで、十分水分補給をするなどして対応している現状だ。最近の自然の状況は、私たちの想像を超えるものがあって、意識がついていかないのが現状だ。そんなことから、社会教育での防災、熱中症対策についても取り組んでいく必要があると感じている。 今日の会では、定住促進の点から、NPO法人「まちづくり西美濃かみいしづ」の3名にお世話になる。NPO法人との連携を深めながら、社会教育の振興をどう図っているかということで、これは昨年来の課題だ。話を伺いながら、こうしたテーマについて、少しでも議論が深まることを願っている。
事務局	ここからの議事進行は、三宅議長にお願いする。 ※ 審議会公開の報告 ※ 傍聴人の許可（この日の傍聴人は1人）
事務局	本日は、NPO法人「まちづくり西美濃かみいしづ」の講話です。昨年末の社会教育振興計画の振り返りの中で、社会教育の推進のため、NPO法人との連携、高等教育機関との連携がやや低い評価となっていた。今回は、委員の皆様は、まずNPO法人について知っていただくこと、その上で、振興計画の推進に当たって、ご提言いただければ幸いである。 それでは、ご講話をお願いする。
NPO	NPO法人「まちづくり西美濃かみいしづ」の理事長として、冒頭に概要を申し上げる。 1月にNPO法人を締結した。上石津地区は旧大垣市との飛び地合併から、すでに10年を経過している。この間、人口は6,300人から5,400人へと

約 1,000 名減少した。高齢化と共に、少子化が進んでいる。昨年、上石津中学校で 1 クラスの学年ができ、このままいくと平成 36 年には、中学校の生徒は 100 名を切る予想である。こうした少子高齢化の波は、決して上石津地区だけのものではないが、なんとかしてこの状況を緩やかなものにした、そして高齢化に伴う様々な不具合を解消したいという思いは、住民の中でもひしひしと感じている。例えば、買い物、病院への交通手段にしても、現在はいくつか 高齢者の自己運転で対応できているが、早晚対応が必要になる。また、現在 4 校ある小学校であるが、2 校についてはすでに複式学級である。このままでいいのかという不安もある。こうした問題に対応するために、平成 28 年度に、4 地区の連合自治会とまちづくり協議会の代表者で、「上石津地域連絡会議」を立ち上げ、問題の洗い出しを行ってきた。こうした中で、上石津地域の重要な事業を担うエンジンとしての組織の立ち上げが不可欠ではないかと思い、NPO 法人の立ち上げに至った。

今後、NPO 法人の様々な事業の展開につきましては 6 項目ありますが、「移住定住促進」につきましては、まず上石津を知っていただくことが大切であり、情報発信も大切になってくる。また、工芸農産物をもとにした地域おこしについても、それぞれの住民が自分たちの農業について自信をもってもらうために、特産品開発を進めている。1 つの収入だけでは暮らしていけないので、並行して何かを行い収入を得る手段がないのかといったことも模索している。さらに伝統の継承と活性化であるが、この地域は昔からの様々な文化が続いている。例えば、かつては時山地区で多くの炭が生産されていた。しかし、森林政策の失敗とも言えるかも知れないが、広葉樹林から針葉樹林に転換したことで、広葉樹林が減少し、炭の原料がなくなってしまった。最近、時山に炭をやりたい人が来ているので、広葉樹林の復活を始めている。牧田の「八朔まつり」は、徳川家光の時代から続き 300 年の歴史がある。これも地元の方の力で続いている。こうしたこともバックアップしていきたいと考えている。ただ八朔まつりに関しても、子どもたちのしゃぎり（笛や太鼓の演奏）がメインであるが、これを担う子どもたちがずいぶん減ってしまった。これをどうしていくかも課題になっている。交流振興の拡大、観光振興についても、移住定住促進につながるものだ。つまり、この地域のファンを増やしていきたい、より多くの方にこの地域に来ていただき、上石津のよさを認識していただきたい。そして、ひと家族でも、ふた家族でも、この地域に来ていただき、定住していただきたい。交流人口の拡大のために、観光の振興をしていきたいと考えている。

NPO	地域課題への提案だが、喫緊の対応を迫られているものととらえている。例えば、「公共交通に関して今のままでいいのか」、「これから学校問題を統合も含めてどうしていこうか」など、積極的に進めていきたいと考えている。これらに共通することは、「住民が暮らし続けたいと思うような地域の魅力を拡充すること」である。私ども NPO 法人の仕事は、まさに、住民が暮らし続けたいと思える地域の魅力の拡充にあると思う。そのために、子どもを通わせたいと思える学校にするための教育環境の整備、交通弱者へのきめの細かい配慮が行き届く社会環境の整備など、こうしたことを住民の力で結集して行いたいと感じている。 幸いなことに、この地域は少なくとも人と人との関わり合いや支え合いといった連帯感、地域への帰属意識は、旧大垣市に対して強く存在していると自負している。現在の地域の危機感をばねに、様々な取り組みをしたいと考えている。設立認可をいただいて4か月であるが、この間に取り組んだことに関しては、順次発表させていただきたく。 始めに、私なりにとらえた上石津を簡単に紹介する。 私自身は、愛知県一宮市の出身で、名古屋に40年間勤めていた。一宮から見ると西側には養老山脈が見える。養老は何度か来たことがあるが、正直のところ上石津町へは、この仕事の募集があるまで全然知らなかった。名古屋、一宮では「上石津を知らない」といった現状がある。ただ、実際に足を運んでみると、名古屋から1時間程度で来られるのでポテンシャルは高い。都会の方にとって、里山はかなりの魅力である。養老山脈を越えると、大きく風景が変わる。都会の方から見て、あこがれる場所である。 4/28,29に、緑の村公園でモニタリングキャンプを行った。これは、NEXCO 中日本が高速道路の利用者を増やしたいと、東名阪、名神をつなげるという切り口で、私の方から提案させていただいた事業である。もちろん、上石津地域事務所、緑の村とも連携して進めた。まず実験（提案）ということで、最終的にはキャンプの動画を公開することを目的とした。（現在 YouTube で公開中） 楽しい料理、音楽家の演奏、それぞれの専門家による話題提供を考えた。その上で、秋以降、入念に計画を立て、実現することができた。参加人数は子どもを含めて77人だった。緑の村公園の広場で好きなところにテントを張っていただき、プロの方に来ていただいたブースで、料理を作ってもらった。お子様に楽しんでもらう遊びも行った。夕暮れ時から、火を焚いて、雰囲気盛り上げた。 こうした行事に若者に来ていただいて、上石津を楽しんでもらい、まず良
-----	--

NPO	さを知っていただき、人口増加の切り口にしたいと考えている。今後は、秋以降、これらが実になるように展開していきたい。 私自身は、昨年まで大垣市役所に勤めていた。少し早めに辞めて、農業に専念することにした。地元で好きな農業を行い、農業の魅力を伝えることに役立てればと思い、この NPO にも参加した。 「どろんこ広場」は、今年初めて行った。たまたま移住してきた子が、田んぼでどろんこ遊びをしたいと話していることを知り、実現することができた。上石津は自然が豊かで、町から来るとこんな楽しい所はないと思う方も多い。休耕田を利用して、近所のヤギも借りてきた。そりなども使って楽しく遊ぶことができた。子どもは、田んぼに一度入ってしまうと、出ることができず、その楽しさを十分に味わうことができた。何人かは、水を寄せて泳いだり、河原にペイントアートを繰り広げたりした。お昼は、スタッフでカレーを作った。加えて、もみ殻を燃やして焼き芋も作った。上石津には、たくさんの題材がある。来てもらうだけでも、芋ほり、川遊びなど、いくらでも遊ぶことがある。NPO でこうした魅力を情報発信して、様々な方がいろいろな形で関わることをできるようにしたい。そして、集まった人が楽しんで、また情報発信していくことが、NPO の役割かと考えている。これが、移住定住に少しでも役立てば、ありがたい。
NPO	実際の移住者、相談者について述べる。今年は、16名（8組）の移住者があり、去年より多い。この理由は、私自身が昨年11月から専属になり、相談者に細かく対応できるようになったこともある。相談者のきっかけとして、昨年10月から今年の3月まで、名古屋の中日ビルで移住相談会が開催され、ここを通じての移住があった。大垣市上石津町の認知度は、関市、郡上市八幡町、多治見市、恵那市と比較すると、「上石津町に行きたい」と思う人は少ない。でも、「近い里山」という点で話をして、その後のフォローを丁寧に行うことで、移住に結び付いたケースもある。それ以外では、大垣市のホームページの「移住」サイトを見て、空き家情報をもとに問い合わせがあり、そこから来ていただいたこともある。もちろん、お客さん自身が不動産情報から調べて見えたこともある。交流人口を増やす、移住者を増やすという点で、情報発信の役割は大きいですが、まだまだそこは弱いので、これらを強化して、上石津町の人、暮らし、空き家の情報、イベントをPRしながら、移住希望者を増やしていきたい。そのために、まず上石津町を知っていただきたいし、興味を持っていただきたい。 新規相談者数は毎月2～6人、空き家は町全体で200を超えるが、実際に

	住んでほしいと出されるケースは少ない。先祖代々の家を貸していいのか、仏壇をどうするのかなど、様々な問題があるのもわかる。ただ、貸家の場合は、仏壇はそのままの場合もある。空き家を貸すことで悩んでいたというケースもあり、喜ばれたこともあった。「住民向けの PR」をしたい。 これらは、自治体としてやっていることでもあるが、自治体としては限りがあり、そのつなぎとして NPO を活用できればと考えている。他の自治体でも、「お試し住宅」として、2 泊、3 泊の貸し出しをしている。北海道などは、3 か月単位で行っているが、大垣市は行っていない。こうしたことに対し、NPO が借り上げて、お試し住宅をすることも可能である。 また、店舗をギャラリーとして活用することも同様に、自治体から直接貸すことが難しい時に、NPO が間に入ることができる。民泊の可能性を探っている。 古民家再生も考えている。どろんこ広場で興味をもち、萱葺き住宅を求める方に、萱を育てるところから始めている。ワークショップを進めながら、茅葺が完成したら移住すること等も考えている。ここにも NPO が絡み、どう展開していくかを考えている。 まだまだ検討段階のものもあるが、他の自治体では、すでに NPO が様々な事業を展開し、成功している事例も多くある。先進事例を取り入れながら、上石津の発展に尽くしたいと考える。
議長	基本目標に「住民参加による地域課題を解決して、地域づくりの推進を目指す」が挙げられている。この NPO は、上石津の地域課題をどうとらえて、どのように向かっていくのか、という点で取り組んでいる。特に今回は、移住、定住など、流入人口を増やすという点で、住民が他の地域の方と交わりながら、地域づくりをいかにしていくかが、大きな要素であると考えている。いずれにしても、NPO 法人と連合自治会、社会教育の方とどのように関わっていくのかは課題である。そういう意味で、ご意見をいただきたい。
委員	移住という点で、年配者はともかく若い方は、子どもや学校の問題があると思う。またこれからの自分の仕事はどうなるのか、実際問題、お金の収入がないと暮らしていけない、こうした問題をどうするのかを伺いたい。
NPO	言われるように、物見遊山で来ても定着しない。これまでの例でいうと 2 通りある。1 つはこの地域に思い入れがあり、何かをしたいと思う方、特

	に、農林業に関わりたい、何か店を開きたいと思われる方がいる。もう1つは、賃料が安いと思う方も多い。実際、家賃はかなり安いと思う。 過去に、移住したいが、何か仕事はないだろうかとの相談もあった。こうした場合、地域協力隊と相談して、いろいろ探した結果、高収入ではないが、生活できる収入の仕事を紹介したこともあった。もともとこの地域は近所の方が非常にいい人が多い。移住者にも、野菜のおすそ分けがなされ、その地域に溶け込まれた方もある。これまで、移住された方で、他地域に移られた方はほとんどない。また、移住を考えている方には、よいことばかり言ってもいけない。例えば、必ず「自治会に入ること」を約束し、普段の不便なことも十分に伝えておく。それを承知で来ていただいた方は長続きすると考える。 若い世代の関心は教育の問題である。学校問題は、かなり大きな比重がある。また共働きの方も多い。日中、子どもの面倒を見ることができないので、学童保育があることも要望される。 学校そのものも課題は多い。児童数は減り続け、4小学校のうち2つは複式である。早晚、学校の問題は何らかの形で解決しなくてはならないと考えており、そのリミットは平成36年と考える。なぜなら、平成36年度には、上石津中学校の生徒数は100人を切るといわれる。これから逆算すると、ここ1、2年の間に、住民の意向を何らかの形にそろえる必要があると考えている。今、まちづくり協議会では、地域ごとのヒアリングを行っている。住民のご意見をいただきながら、何とかまとめていきたいと考えている。最終的には、目標を作って、バックキャスティングをしていく必要があると思う。短期間で何とかしたいと考えている。
委員	学校が減り、統合の話もある。一方で、地域のコミュニティも必要である。環境がいいから山に来て住みたいとはいっても、相当のメリットがないと実際には難しい。ぜひよいことをPRしていかれるとよいと思う。
議長	学校の問題は大きな課題である。平成36年と言われたが、私たちの地域（多良地区）でも、NPO法人に限らず、地域の自治会がどう関わっていくかが問題である。ちなみに平成29年度に生まれた子どもは、牧田11人、一之瀬5人、多良3人、時7人で、合計26人になり、これから逆算すると、平成36年には上石津中が100人を切ることになり、対応を考えている。移住定住の中で、近くに学校があると言えなくなるかも知れない。これから様々な問題を解決していかなければならないと感じている。

委員	移住定住に対して、まず上石津の知名度を上げていくことに、一番の課題があると思う。情報発信の強化として、大垣市にはいろいろな媒体がある。大垣まつり、十万石まつり、大垣マラソンなど、大きな行事がある。私の家族もマラソン好きで、各地の大会に参加している。マラソン大会は、前日の土曜日から宿泊する方も多し。ランナーはリピーターも多いので、こうした方に上石津の情報を同封したり、発信したりしていくことが有効であると思う。また、ランナーを民泊で、交流の輪を広げることも考えられる。こうしたことで、より多くの方に上石津を知っていただけるのではないかと感じた。ただ、移住定住の目的意識がある方でないと、大垣市の里山暮らしのコンテンツにもなかなか目がいかないと思う。違う分野から情報発信を強化していく必要があると感じた。
NPO	先ほどの学校についてであるが、小学校の統合といった時に、4つの小学校の施設がいなくなることが考えられる。こうした施設の活用も並行して検討していかななくてはならないと思う。空いた学校の有効活用は、NPO法人の大きな柱になっていくと考える。NPO法人は、資産の管理運用ができることが大きな特徴である。
議長	学校について活発に意見が出ている。しかし、6年ぐらい前までは、こうした話はできなかった。みなさんは、多くの情報を得て、思いを発信できるようになってきた。この変化と現在の地域の思いをぜひ事務局でも認識してほしい。
委員	社会教育委員になって、初めて上石津の4小学校と中学校に学校訪問させていただいた。同じ大垣でも少し違うところを感じた。各学校では、地域の偉人が大切にされている。将来都会に出ても、脳裏に刻まれているものと思う。また、若い人が働けるような会社を誘致することも考えてほしい。なお古民家の耐震性はいかがか。古民家を斡旋して、責任を問われることはないだろうか。上石津中学校の環境はとてもよかった。若い人が定住し、できるだけ出ていかないように策を講じてほしい。
委員	大変、ポテンシャルの高い地域だと思うし、活動も熱心だと思う。 2つほど聞きたい。1つ目は、モニタリングキャンプとどろんこ広場について、もう少し聞きたい。2つ目は、定住の方のヒアリング時の様子等、お聞きしたい。なぜ、参加されたか、その後、どんなフォローをされたか。

NPO	まず、モニタリングキャンプは、基本的には、養老 IC、SA のスマートインターができた。NEXCO 中日本が高速道路利用者を増やしたいというのがきっかけである。これに便乗する形で話が立ち上がった。モニタリングキャンプでは、まずこの地域の発信をして、そのためのプロモーションビデオの作成が大きな目的であった。これから、外に情報を流してどんな反応があるかを見ていきたいと考えている。様々な行事は、リピーターをいかにつかむかが大切であると考えている。キャンプ自体は以前に行ったこともある。そのころからのお客様もいる。こうした方に、様々な形でフォローをしている。 どろんこ広場のイベントは、今年初めて行った。インターネット、役所の公募などを通して、いろいろな所から参加をいただいた。参加者同士のつながりを持ちたいという思いがある。移住者も参加者もいろいろなつながりが持てればありがたい。そのために、声をかけたり、情報提供したりしている。
委員	こうした点の活動が、面に広がる中で、実際に 77 名が参加され、その動機等を丁寧に分析されている。これが、次への動機になると思う。 定住、移住された方は、どんな理由か。データはあるか。
NPO	昨年の 11 月からであるが、定年後の住まいとして移住されたケースも多い。若い世代は、学校で言えば、逆に児童数の少ないところで子どもを育てたいとの声もあった。また、夫婦どちらかの親が上石津町近くに住んでいるというケースもある。揖斐川町に親がいて、たまたま上石津町にいい物件があったというケースもある。また三重県に親がいて、車で 1 時間圏内を探していたら、上石津町の時地区が候補になったケースもある。あるいは、不動産屋で地図をもらい、現地へ足を運んだところ、上石津でもとても親切にしてもらい、この地域に決めたケースもあった。さらに具体的な分析は、これから進めるところである。ぜひ、こうした成功事例を積み上げていきたいと思う。
委員	誰かの心に響いたものが、次の誰かにつながっていくことを感じた。
NPO	繰り返すが、リピーターをいかにつかむかが大きい。これを肝に銘じて、イベントを重ねていきたい。そのための施策としてアンケートをとり、感想に耳を傾けていきたい。移住者も、常にまちづくり協議会に相談をかけている。まさに、移住定住については、熱心に取り組まれている。

委員	本巢市の地域おこしの事業に携わったことがある。うす墨温泉の近くの移住定住に力を入れている時に感じたことがある。NPO だけでも限界があるし、地域だけでも難しいことを感じた。農業指導、カフェの集客など、いずれも地域と一体になった活動が必要であると感じた。地域の産業の街の人を含めて発展させないと、居住、移住に結び付かないと感じ、地域の人を巻き込んで活動する必要があると学んだ。私自身も子どもが6人いるが、子育て日本一となるように、移住定住と子育てを一緒に PR していくとよいと思う。実際私も住みやすい街と感じている。行政とともに取り組んでいく必要がある。若い世代には、イベント等情報発信が重要である。呼んでくることも、そこから発信していくことも大切にしていきたい。
議長	NPO 法人の代表は、牧田連合自治会長でもある。地域づくりと共に、上石津の課題として取り組んでいる。空き家さがしにしても、イベントの可能性にしても、自治会の力がないと成り立たない。こうした連携を大切に、取り組んでいる。 こうした中で、社会教育振興計画にあるように、どのように地域との連携を深めるかは大きな課題である。こうした点で、ご意見、ご提言をいただけるとありがたい。
委員	今年の5月に上石津緑の村公園に私の学校の5年生がお世話になった。奥養老で宿泊し、飯盒炊爨、ウォークラリー、夜のキャンプ、グランドゴルフなど行った。雨だったが、グランドゴルフはウッディドームを利用し、2日間充実した研修ができた。とてもよい所であることを実感し、来年も期待と思わせるものであった。人数が50～60人の学校に限られるが、大垣市の学校だけでなく、広く県内外にアピールして、誘致をするとよいと思う。当日もキャンプファイヤー、飯盒炊爨において、地元の方に来ていただき、ありがたかった。学校の職員だけではできないことを教えていただいたり、手伝っていただいたりした。 ただ、バーベキュー、ゴルフなど、魅力は多いが、より幅広い層に訴えるためにも、住民が危機感を持って動いていかないと変わっていかないと思う。学校、下水道、いろいろ問題があるが、様々な問題もオープンにして、危機感を持って取り組むことが大切だと思った。
議長	地域が危機感を持って、取り組んでいく必要を感じている。

委員	まだ立ち上がったばかりの法人であるが、徐々に、定住者を増やし、少しずつ進めていただきたいと考える。いつも市長が言われるように、人口が増えないと始まらないことがある。実際に移住した方の「環境のよい所に住んでよかった」という声などをPRし、広めていかれるとよい。
委員	合併までは、上石津のことをよく知らなかった。女性団体（食改、日赤、婦人会、生活学校）で訪れた。上石津を回り、すごくいい所だと感動した。遠くに行かなくても、こんなに素晴らしい所があると感じた。いろいろな行事で訪れるたびに身近になってきた。よい所であることは間違いないことであるから、多くの人にPRして、上石津を知っていただくことが大切だと思う。例えば、音楽堂を使った時に、中部ブロックの行事であったため、隣の皆さんが感動して帰られた。でも、炭焼きの方が廃業されたと聞いたのは残念だった。お茶にしても、何をやるにしても、とてもよい炭だったので残念だった。先ほどの説明で、復活の話を聞き、とてもうれしく感じた。なお休耕田で黒いトマトを育てることが報道されたが、あれはどうなったのか。
NPO	今も育てている。休耕田の利用の方法の一つとして、そばも進めている。先週種を蒔いたので、9月ぐらいに素晴らしいそば畑の風景が現れると思う。また、その折にはぜひ上石津に来ていただきたい。
委員	水嶺湖のコスモスもきれいである。
NPO	こちらも素晴らしい風景である。どのように生かしていくかは課題である。本来は体系的に整備、PRの必要があると考えている。 また、上石津は4つの地域があり、トンネルを境に時、多良地区と、一之瀬、牧田地区とかなり感覚的に違う。こうした実態の中で、どのように共通項を見出し、方向を揃えて進めていくかが苦戦しているところである。まずは、地域ごとに頑張って、それを私たちが合わせていくことが大切な役割だと考えている。
教育長	今日の話を聞き、まず、住環境に積極的に取り組んでいることに感謝した。今後ともよろしく願いしたい。学校の統廃合をはじめとし、教育環境をどう整えていくかについては、教育委員会としても、最大の問題ととらえている。基本的には、地域の皆様の意向が大切なので、難しいところがある。これからも地域の皆様に十分に情報を提供し、意向を大切にしながら

	進めていきたい。統廃合の後の校舎の活用についても、一緒に取り組んでいきたい。 「ふるさと大垣科」で、上石津中の子どもたちは、毎年発表の中で、「少子高齢化の中で、地域をどのように発展させていくか」を話してくれる。ぜひ NPO 法人の皆様も学校と連携していただいて、子どもたちにそうした状況も提供していただけるとありがたい。 最後に、4つの地域に社会教育推進員がいる。推進員との連携が重要な課題と教育委員会としては考えている。NPO の方から社会教育推進員に期待されることがあれば、伺えるといいと思う。そして、地域を活性化させるために、社会教育推進員の方と一緒に活動できるとよいと思う。
議長	たくさんの意見をいただき感謝する。今後とも、上石津のために活動が活性化されれば、ありがたい。
事務局	事務連絡 ・ 東海北陸大会の参加と役割について（10/18,10/19） ・ 学校訪問（2学期）について ・ 社協情報の申し込みについて 以上で、社会教育委員の会を閉じる。

上記のとおり、会議の次第を記載し、その相違のないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名者 _____